

## 欧州視察報告＜6＞

視 察 項 目	クロアチア共和国大統領閣下拝謁
視 察 日 時	2009年2月4日（水） 午後6時00分～6時30分
視 察 先 名	クロアチア共和国大統領府
担 当	佐々木由美子

### 【スティエパン・メシッチ大統領閣下拝謁】

2008年春に、メシッチ大統領を始めとする視察団が日本に来国され、その際に、川崎市臨海部を視察されたご縁から、今回の拝謁となりました。

大統領は、現在の世界的金融危機のほか、エネルギーや食料危機が大問題になっていることに触れ、そこから成長するためには、世界に新しいモデルが必要な時になっている。

今までは、グローバルレベルのビジョンがなかったが、クロアチア共和国としては、EUの方向性は正しいと考えている。また、日本若しくは川崎市に対して、全ての分野での交流が必要であり、市民レベルの交流が盛んになることを望んでいる。また、ザグレブ空港の改修を進めているが、東南ヨーロッパの拠点となりえるよう貨物の受け入れも視野に入れており、アドバイスが欲しい。そして、川崎市とリエカ市との交流をさらに強固なものとし、ヨーロッパのどこの港よりも安くて便利なりエカ港への輸出を進めて欲しい。との話がありました。

また、同席したクロアチア文化アドバイザーの方より、クロアチア共和国では毎年、若い指揮者を支えるコンクールを開催している。音楽にも力を入れ、愛知EXPOでは、ザグレブフィルがコンサートを



大統領府にての拝謁

行なったときの話などもありました。視察団からは、クロアチア共和国を訪問できたお礼など自己紹介をしながら、各々意見交換をしました。

クロアチア共和国は、隣国スロベニアとの領土問題が解決していないこともあり、EUの加盟が予定より延びています。そのため、経済活動等への制約等もあるようで、世銀に

よる2007年度ビジネス環境報告書でも中東欧諸国の中で最下位から2番目、ウォールストリートジャーナルによる経済自由度指標を見ても、欧州地域内41カ国中37位で、かなり不自由と低評価を受けている現状があります。

そのような中、今回の私ども視察団の受け入れについては、川崎市がビジネスパートナーとして期待されていることを強く感じました。今後に向けて文化・経済・技術などの交流が更に進むような施策を共に考える第一歩となる拝謁・視察になったと考えます。

また、今回の大統領拝謁につきましては、外務省、在クロアチア大使館特命全権大使白川哲久氏のお力添えが大きく、この場をお借りして、お礼申し上げます。



大統領と意見交換する粕谷副団長



白川大使夫妻と意見交換する鏑木団長

## 【クロアチア国会議事堂視察】

クロアチア共和国は、1991年に旧ユーゴスラビアから独立を宣言し政権の交代を繰り返しながら、権威主義的な体制から議会制民主主義の体制を整えてきました。下の写真は、議会に多くの市民が集まり、新憲法が制定された時の様子が描かれたものです。



クロアチア国会議事堂



国会議事堂内にて





クロアチア大統領（右から7人目）と視察団の記念撮影